

震災復興・原発事故に技師会として最大限の協力を！！

2011年4月20日

社団法人 宮城県放射線技師会 会長 阿部 養悦

平成23年3月11日に発生した東日本大震災によりお亡くなりになられた方々のご冥福を心よりお祈りするとともに、ご遺族に心からお悔やみを申し上げます。ならびに、被災されました皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

また、未だなお苛酷な環境の中におられます皆様、どうかお体をいたわり、一日も早い復興復旧をお祈り申し上げます。

今回の未曾有の震災は、多くの方々から『日常』を奪いました。ライフラインが復旧するにつれこの度の甚大な被害を目の当りにする機会が増え大きな衝撃を受けました。会員の皆様方も、これまでに経験したことのない大変なご苦勞をされたものと思います。特に、沿岸部においては津波により職場やお住まいが被害にあわれた方も多く、心よりお見舞い申し上げます。

また、震災により発生した福島第一原発事故に関しても、多くの皆様方が人間として、放射線技師として心を傷めているのではないかと思います。宮城県放射線技師会は、原発事故の直後から行政の要請に応え、宮城県庁において3月18日から「福島第一原発事故に関する相談窓口」の医療に関して継続して電話相談の対応をしてまいりました。また、4月3日には、仙台逡信病院において一般市民の方向けの講演会、被ばく相談会を開催するなど、拡大する原発事故への不安にたいして対峙してまいりました。しかし、ひと月を超えた現在でも、いまだ事故は予断を許さない状況にあり、長期化する様相を見せています。本会としては今後とも継続した取り組みが必要と認識しています。

復興までにはかなりの労力と時間を要することと思います。大変なときこそ、会員の皆様方で力を合わせ、この震災を乗り越え笑顔を取り戻していきましょう。

会員の皆様には、今後とも、ご支援ご協力をお願いいたします。